

# 下野市立吉田西小学校



## 1 学校課題

主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成  
 ～基本的表現を身に付ける授業の創造と語彙力の育成を通して～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定理由

本校では、昨年度に引き続き、英語学習を中心としたコミュニケーション能力の育成を目的として研究を進めてきた。外国語科・外国語活動・英語活動では、児童の興味・関心を引き出す工夫をし、基本的な話型の習得により、コミュニケーションへの苦手意識は少なくなり、リアクションをしながら英語でのやり取りをしようとする児童が増えた。また、国語科において、基本的な表現力、話合いの仕方を身に付ける授業を通して、伝え方を習得することができた。しかし、自分の考えや思いを自分の言葉で主体的に伝え合おうとするまでには至っていない。また、コミュニケーションに必要な語彙力にも課題が残る。

そこで今年度は、外国語科・外国語活動・英語活動において、英語でリアクションを付けたコミュニケーションができるようにすることはもちろんのこと、各教科の言語活動や教育活動全体で取組を進めることで、主体的に自分の考えや思いを表現できる児童を育成しようと考えた。

### (2) 研究の仮説

次のような手立てをとれば、主体的に自分の考えや思いを表現できる児童の育成につながり、コミュニケーション能力が向上するであろう。

- ①外国語科・外国語活動・英語活動において、児童が「やってみたい」と思えるような学習課題や活動を数多く設定した授業の創造
- ②各教科等の特性を生かした言語活動の充実と教育活動全体における指導
- ③基礎的な語彙や表現方法の定着

### (3) めざす児童像（身に付けさせたい力）

既知の学習内容を活用し、表現力豊かに伝え合う子ども		
低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○単語ではなく、文で話せる子</li> <li>○思いや考えのわけ（根拠）が言える子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大事なことをゆっくり相手を見て話せる子</li> <li>○共通点や相違点を見付けながら話せる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現力豊かにコミュニケーションできる子</li> <li>○論理的に筋道を立てて話せる子</li> </ul>

## 3 研究内容

### (1) 研究授業を通しての課題への取組

期日	学年	教科・単元名	授業の工夫・手だて	成果・課題
7 / 14	6年	<b>外国語活動</b> Lesson3 Welcome to Japan.	動画を撮影してそれをもとに振り返りをし、発表をより工夫できるようにした。また、発表の練習時間を確保した。	○タブレット端末の活用により、自分の発表の様子を客観的に評価し、振り返りができたので、学習効果を高めた。 △「中間の振り返り」の質を高める。考えを再構築する場面にするための手立てを考える。

9 / 8	3年	<b>外国語活動</b> Unit6 ALPHABET アルファベットとなかよし	音声と活字体の大文字を結び付けるゲームを取り入れ、楽しみながら技能の向上を図った。タブレット端末を利用し、児童が主体的に大文字を見付けることができるようにした。	○身の回りにあるアルファベット探しということで、今回の授業だけでなく他の場面でも、学習した内容を生かすことができる。 ○アルファベットの大文字が書かれた箱やポスターを教室に配置したり、タブレット端末で写真を撮る技能を高めたりしたことが、主体的な活動につながった。 △授業者のデモンストレーションや示範を充実させ、聞こうとする態度を養う。
12 / 8	4年	<b>外国語活動</b> Unit 8 This is my favorite place.	体育館に仮想の教室を配置し、道案内場面を想定してやり取りを行った。ペアワークや中間の振り返りを設けてスモールステップを踏んだ。	○教室のような配置は、案内するにもちょうどよい広さで、活動しやすく、技能を身に付けるには、効果的だった。 △デモンストレーションで、教師が何にポイントをおくか、どんなことに気付かせたいかをしっかりと意識する必要がある。

(2) 各教科等の特性を生かした言語活動の充実と特別活動や日常的な生活場面での指導

- ・朝の会や国語科で「会話タイム」を設け、リアクションを取り入れた発表や詳しく知るための質問、回答などのコミュニケーション能力の向上を図った。
- ・各教科において、南河内中学校区小中一貫教育で作成した資料を参考に、言語活動の充実を図った。「話すこと・聞くこと」に関する基本的な国語の力を生かし、話合いや発表の場面を多く取り入れた。また、タブレットを用いての発表場面も設定でき、意欲的に取り組んだ。
- ・蔵王祭（学習発表会）では、相手を意識し、分かりやすく伝えるためにどうしたらよいか考え、各学年の実態に合わせ工夫して発表した。

(3) 基礎的な語彙や表現方法の定着

- ・朝の会での「イングリッシュタイム（英語でのやり取り）」で、英語でのあいさつや簡単な単語を用いた会話などを、繰り返し指導した。合わせてリアクションの仕方も指導できた。
- ・ノー原稿発表では、相手意識をもつこと、より伝わるために工夫することを意識づけた。

## 4 本年度の成果と課題

(1) 成果

○外国語科・外国語活動・英語活動において、タブレットの活用や仮想の教室の設定により、児童の活動意欲が高まり、発表しよう、やってみようとする主体的に取り組めた。また、Smalltalkやチャッツ、ゲームなどのアクティビティで繰り返し指導することにより、コミュニケーションに必要な基礎的な力を定着させることができた。

○朝の会や「イングリッシュタイム」などでコミュニケーション活動を毎日、継続して指導することで、知識や技能の定着が図れ、自信にもつながった。

○ノー原稿発表での系統的な指導が、各教科や学校行事、委員会活動での発表の場面で、十分に活用でき、発表力が向上してきている。

(2) 課題

○ノー原稿発表やスピーチなどみんなの前での発表は、意欲的にできるようになってきている。今後は、身に付けた力を自分の考えや思いを伝え合う活動（対話）や話合い活動に生かし、より充実した言語活動が展開できるようにしていきたい。

